

V-CROSS

2次元CAD V-nasシリーズ

V-CROSS（ブイクロス）は、平面交差点の幾何構造設計をビジュアル感覚で行う専用CADです。『V-nas（ヴィーナス）』の強力なインターフェースと汎用作図機能、V-LINER（ブイライナー）の高精度な線形処理をベースに、V-ROAD（ブイロード）の線形データを活用することもできます。CADの柔軟性・操作性を十分に活かし、設計者の高度な判断を作図段階で反映する「交差点専用コマンド作図」と、初期値を入力するだけで自動作図する「一括作図」を装備しています。

製品特長

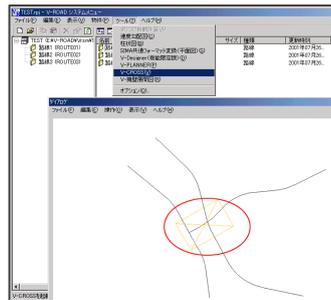
V-CROSSは、線形計画から交差点の詳細図までの作業をオールインワンの操作で実現するいわば平面交差点計画用の総合CADです。交差点専用コマンドはもちろん、線形専用コマンドと汎用コマンドを標準装備しています。

- 一括・専用コマンドのツインドライブ装備
- V-ROADで作成された全体線形から、必要な部分のみ抜き出しての連動

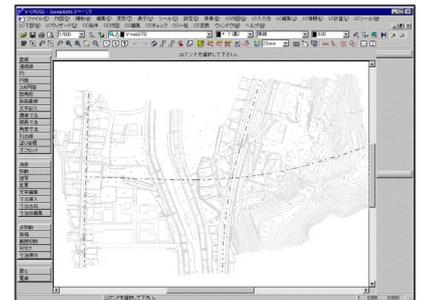
1 | 計画開始

▶ 豊富な線形入力機能

V-ROADで作成された全体線形図面から、必要な部分を抜き出します。



計画開始



交差点線形

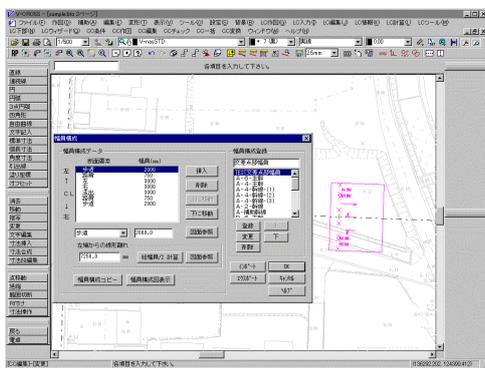
2 | 専用コマンド作図

▶ 交差点専用作図コマンドでじっくり詳細作図

交差点専用作図コマンドは、手書き感覚で必要な項目を自由に設定し、詳細に図面を仕上げる事が可能です。

▶ 幅員構成設定

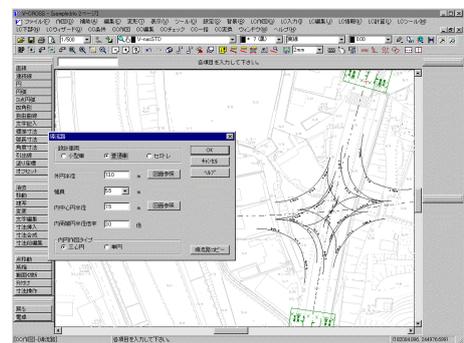
横断構成がひと目でわかります。



幅員構成設定

▶ 導流路作図

流入車線と流出車線をクリックするだけで、導流路や歩道巻き込み線を自動的に作図します。

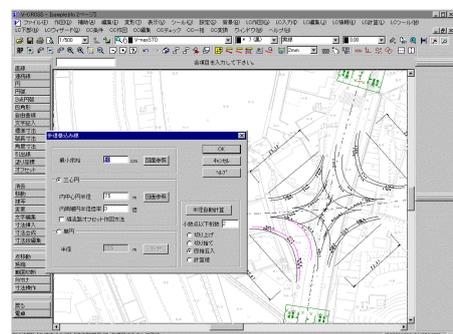


導流路作図

▶ 歩道巻き込み線・隅切り線作図

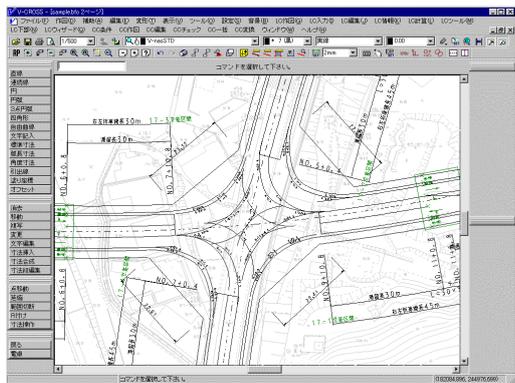
導流路からの最小余裕を考慮したり、隅切り線より歩道幅員を確保する入力方法が選択可能な歩道巻き込み線や、線長固定作図が可能な隅切り線の作図に対応しています。

歩道巻き込み線



▶ 本線シフト長・テーパー長計算

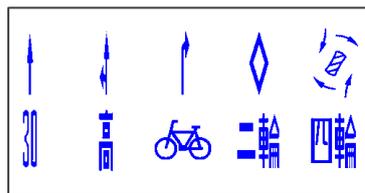
道路構造令に基づいた右左折車線の設計（本線シフト長・テーパー長の計算）が可能です。



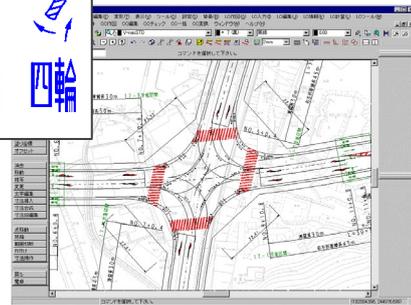
右左折車線

▶ 横断歩道・ゼブラ作図

代表的なペイント図形（「路面標示設置の手引き」（社）交通工学研究会より抜粋）が登録されており、自由に配置できます。



路面標示



ゼブラ作図

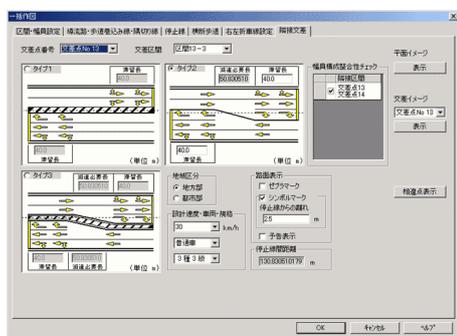
3 | 一括作図

▶ 一括作図コマンドで一気自動作図

設計規格による初期設定値に、必要な変更を加えるだけ。あとは自動作図機能にお任せください。

▶ 一括作図コマンド

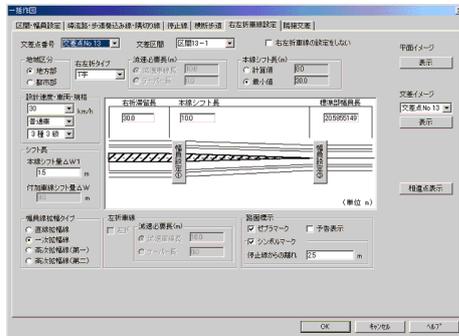
各タブにて条件を設定すれば、あっという間に作図が完了します。



導流路・巻き込み線・隅切り線設定



隣接交差設定

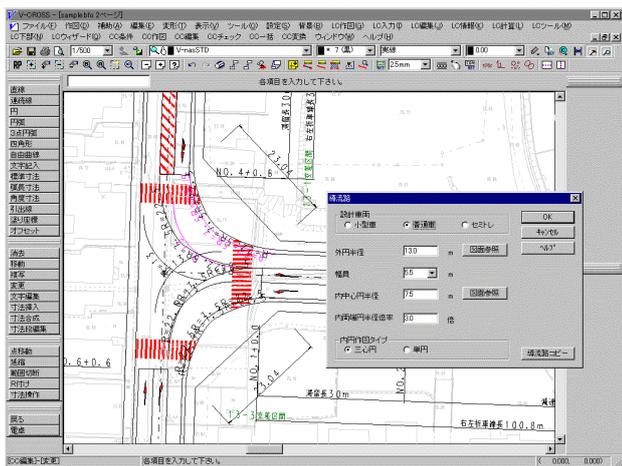


右左折車線設定

4 | 部分編集

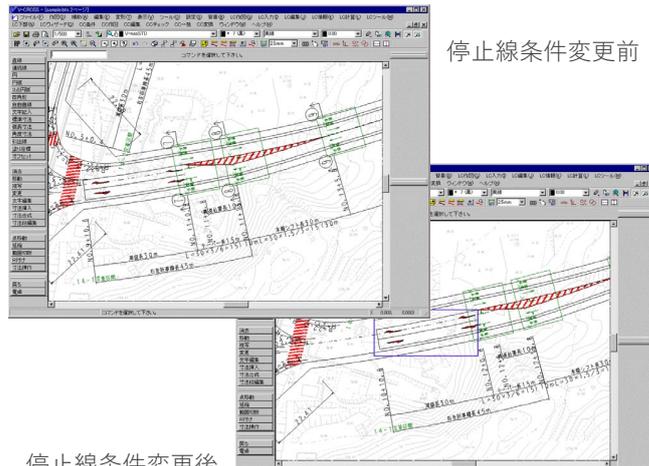
▶ 完成図の部分編集

詳細な変更も可能です。例えば、着目する導流路の条件を変更します。



導流路の編集

停止線条件の変更により、関連する項目も自動再作図が可能です。



停止線条件変更後

5 | 一括編集

▶ 完成図の一括編集

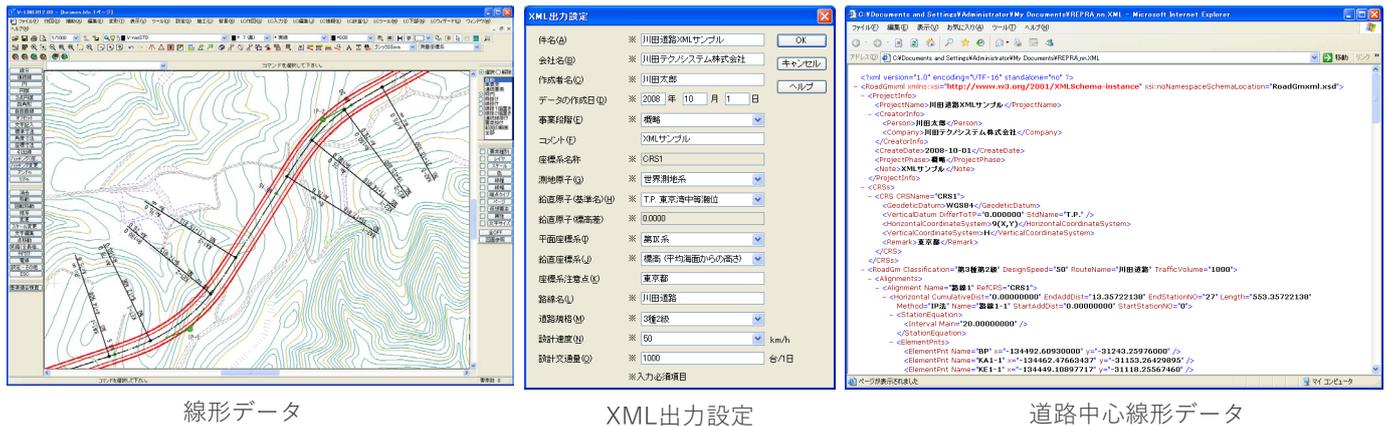
条件設定画面にて作図項目条件を編集することにより、一括で再作図が可能です。



6 | 道路中心線形データの入出力

▶ 「道路中心線形データ交換標準(案) 基本道路中心線形編Ver.1.0」XMLファイルの入出力

「道路中心線形データ交換標準(案) 基本道路中心線形編Ver.1.1」で規程されたXMLデータの読み込みを行います。また、『LC作図-曲線-一括入力』コマンドで作図した曲線を「道路中心線形データ交換標準(案) 基本道路中心線形編Ver.1.1」で規程されたXMLデータの線形に変換することができます。



線形データ

XML出力設定

道路中心線形データ

動作環境

※必要メモリ等はシステム環境によって異なる場合がありますのでご注意ください。

OS

Microsoft Windows 11,10 64bit
※Windows動作保証の最新情報は[こちら](#)

記憶装置

10GB以上の空き容量 SSDを推奨

CPU

OSのシステム要件を満たし、問題なく動作する環境

ディスプレイ

1920×1080以上が表示可能なもの

メモリ

OSのシステム要件を満たし、問題なく動作する環境